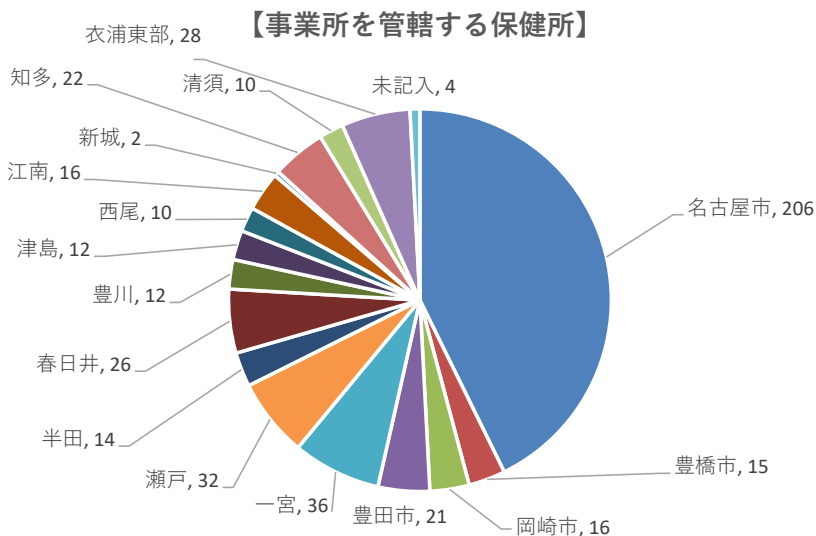


新型コロナウイルス感染症に関するアンケート結果

1. 調査期間：令和2年6月18日～令和2年6月30日
2. 調査対象：愛知県内の訪問看護ステーション756事業所
3. 調査方法：FAXによる配布と回収
4. 回収状況：回収数482事業所（回収率63.8%）
5. アンケート調査結果

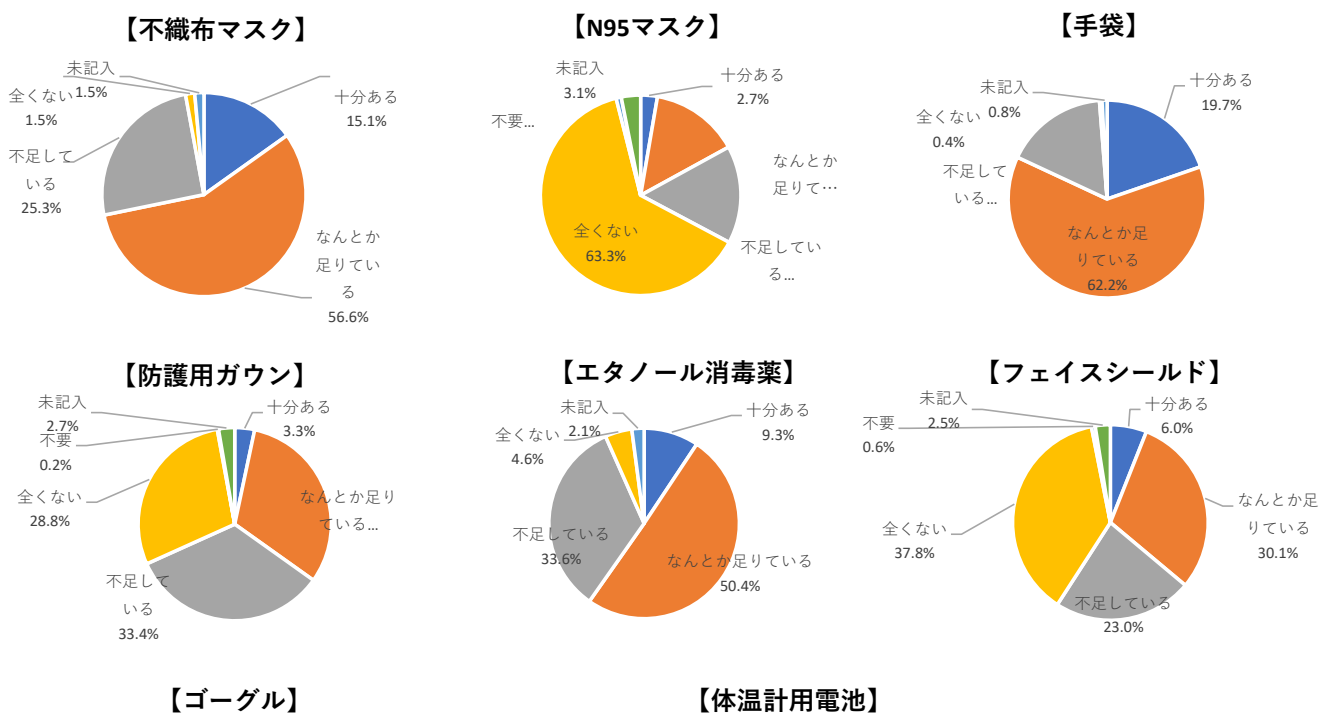
(1) 事業所を管轄する保健所

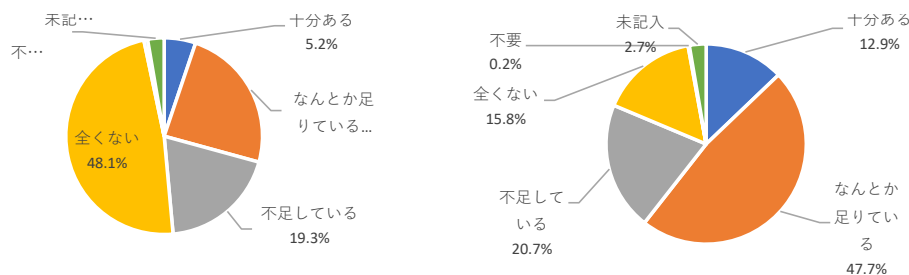
名古屋市	206
豊橋市	15
岡崎市	16
豊田市	21
一宮	36
瀬戸	32
半田	14
春日井	26
豊川	12
津島	12
西尾	10
江南	16
新城	2
知多	22
清須	10
衣浦東部	28
未記入	4
合計	482



(2) 現在の感染対策の物品・材料の充足状況

	十分ある	何とか足りている	不足している	全くない	未記入	不要
不織布マスク	73	273	122	7	7	
N95マスク	13	69	76	305	15	4
手袋	95	300	81	2	4	
防護用ガウン	16	152	161	22	10	
エタノール消毒薬	45	243	162	22	10	
フェイスシールド	29	145	111	182	12	3
ゴーグル	25	116	93	232	13	3
体温計用電池	62	230	100	76	13	1

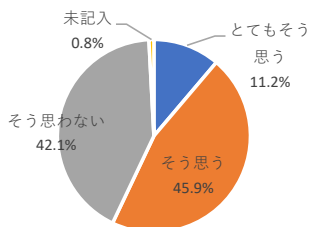




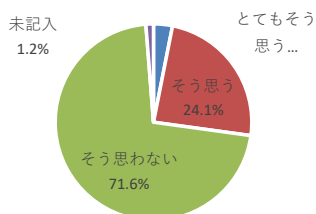
(3) 今回のコロナウィルス感染症により受けた影響

	とてもそう思う	そう思う	そう思わない	未記入
収益が減少した	54	221	203	4
風評被害にあった	15	116	345	6
出勤体系が変わった	103	139	232	5

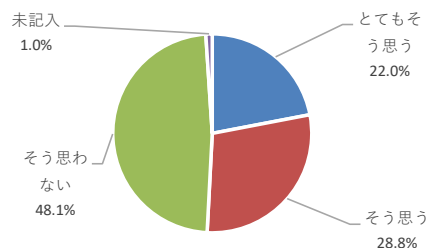
【収益が減少した】



【風評被害にあった】



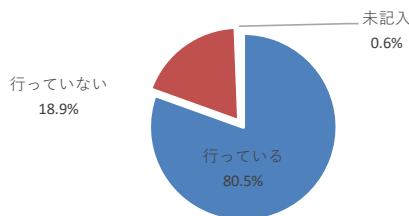
【出勤体系が変わった】



(4) 新型コロナウイルス感染症流行の第2波に向けての対策

【第2波へ向けての対策】

行っている	388
行っていない	91
未記入	3



【第2波に向けて行っている対策】

361件

カテゴリー分類 (重複回答あり)

	主な対策	件数
1	物資に関わる準備	127
2	訪問体制や勤務体制の変更	60
3	感染対策の徹底・強化等	155
4	マニュアルの作成・見直し等	24
5	職員・利用者の健康観察	65
6	ICTの導入	30
7	近隣のステーションとの連携・システムづくり	11
8	環境整備 (ソーシャルディスタンス・換気・三密回避等)	77
9	行動制限 (不要不急の外出制限など)	12
10	勉強会・教育 (利用者・スタッフ・関係者)	19
11	その他 (継続を含む)	68
	総件数	648

【自由記載の内容 (事業所複数の場合は上記カテゴリー順に重複を省いて記載)】

①物資に関わる準備

- ・ 衛生材料の確保、防護服の作成 (ゴミ袋で)
- ・ 備品が確保できるように毎日チェックしている。
- ・ マスクは使い捨てしていない。ガウン・ビニールエプロンも購入できないので、ゴミ袋をカットし、クリップとひもで簡易エプロンとして使っている。
- ・ マスクを少しずつ買い足している

- ・不織布マスク、手袋、エタノール消毒薬、次亜塩素酸ナトリウムの確保
- ・第2波、冬季に向けて少しずつ物品を購入している。備蓄分を増やすことにした。スタッフが感染、濃厚接触者になった場合、学校休校で欠勤する場合の体制、対応について話し合っている。
※不織布マスク；ステーション経費で買えそうになって従来価格の10倍だった、現在3倍スタッフが個人で調達し分け合っている、エタノール消毒薬；酒屋で購入した、フェイスシールド；クリアファイルで作成、ゴーグル；水泳用で代用
- ・衛生材料を余分に購入できる間は購入している
- ・衛生材料の準備、買える物は積極的に買っている
- ・少しずつ物資購入し備蓄、感染対策マニュアルの修正と追加→スタッフへの教育。

②訪問体制や勤務体制の変更

- ・ステーション運営がストップしないように、複数グループに分けている（グループ毎の直接接触は避ける）
- ・直行・直帰グループの編成
- ・時差出勤の継続
- ・時間変更による出勤体制に取り組みました
- ・スタッフを2チームに分け対応、利用者様も2チームに分け、各チームが接触しないようにする
- ・ステーション閉鎖時どうするか、利用者の重症度、客観的にわかるよう整備している途中
- ・利用者様へ電話での対応が可能であることの連絡。朝礼はズームにて行いスタッフが密にならないよう配慮。
- ・通勤方法や業務改善
- ・緊急事態での勤務体制を作成中（学校休校となり子育て世代スタッフの勤務時間で困ったため）

③感染対策の徹底・強化

- ・事務所内でのソーシャルディスタンスや流行時と同様の手洗いやマスク着用は継続中
- ・出勤時の検温、マスク着用、手指のアルコール消毒、環境整備の徹底、面会の時間制限、家族への指導
- ・第1波での一部対策続行（発熱状況の確認、（スタッフ、利用者）、マスク・手洗いの徹底、換気等）
- ・利用者様に毎朝体温測定への依頼、手洗い・うがいの継続、マスクの着用
- ・事務所では、別々にお弁当を摂取、マスクははずさない
- ・引き続き密を防いで、ミーティングを行っている。フェイスシールドを使い勉強会を行っている。

④マニュアルの作成・見直し等

- ・職員の健康チェック表の作成、対応マニュアルの見直し
- ・マニュアル作成、研修会（ST内）で内容確認、近隣STとの連携（訪問依頼など）
- ・感染対応マニュアルの更新
- ・コロナ感染対策マニュアルの随時見直しと実行
- ・利用者（家族含む）、スタッフ（家族含む）の感染疑いの場合の対応マニュアル作成。テレワークの導入準備。

⑤職員・利用者の健康観察

- ・職員・利用者の健康チェックを行っている。
- ・職員の検温は毎日行っている。ご利用者様には発熱があればTEL対応やキャンセルで対応しています。
- ・利用者すべて毎朝体温測定し、T37.0℃以上の時は連絡してもらう。従業員の検温（出勤前）。家族の体調管理。
- ・出勤時の体温測定
- ・事務所の3密防止、学生実習の対策、事務所閉鎖時の対策、トリアージ

⑥ICTの導入

- ・会議はzoomでできるようにした。
- ・マスク、手洗い、うがいを継続。密にならないようWeb会議を実施。
- ・テレワーク、オンラインのステーションカンファを導入
- ・ステーションで三密を避ける、ミーティング等でzoomの使用

⑦近隣のステーションとの連携・システムづくり

- ・地域の訪問看護ステーション間の連携体制づくり
- ・近隣の訪看との連携
- ・近隣のステーションの応援体制の整備検討中
- ・病院と一緒に対策を立てて相互に協力しあう。市内の訪問看護ステーション会で協力体制を相談した。

⑧環境整備（ソーシャルディスタンス・換気・三密回避等）

- ・スタッフ同士の接触は極力避ける、事務所に集まらない
- ・集合ミーティングを避けている
- ・自社施設内ゾーニング、週1回MTG実施、ステージングによる行動自粛など
- ・食事は同じ場所にとらない

- ・ 社内の飛沫感染予防に透明シートを設置
- ・ 予防や行動の継続、密回避（休憩をわける、作業スペースを広げるなど）
- ・ 事務所内アクリル板の設置
- ・ 訪問時、換気に留意し、マスク、手袋着用。訪問前後は手洗い。人ごみの中にはいかない等

⑨行動制限（不要不急の外出を控える）等

- ・ 職員のプライベートでもstayhomeを心がけている
- ・ 職員の県外への移動の自粛依頼、行動の記録の実施。物品の余裕をもった備蓄はできていない。

⑩勉強会・教育（利用者・スタッフ・関係者）

- ・ 第1波をふまえ、再度勉強会を行い正しい知識を持つ→教育できるように、改めて利用者様への説明 など
- ・ 勉強会を実践し、自社で行うべき事、ご利用者様、ご家族様にも正しい知識を共有し、共にコロナ感染症にいつかかっても対策がわかる様にしています。
- ・ 今訪問時にNs主体に行っていることを、ご本人様及びご家族様が行えるように練習していただいている。

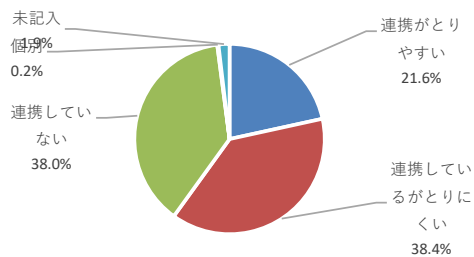
⑪その他（継続を含む）

- ・ 緊急事態宣言時と同じ対策を継続している
- ・ ①訪問依頼（新規）を当面受けない。②医療保険対応を働きかけたい。③医療費の削減をされないなら、自宅（在宅）感染者にも訪問し、健康推進したいと考える。
- ・ コロナ対策チームを作成している
- ・ トリアージを検討

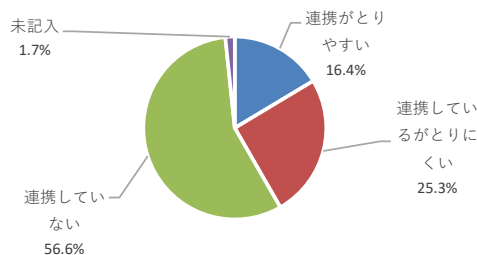
(5) 現在の地域の関係職種との連携状況

	連携がとりやすい	連携しているがとりにくい	連携していない	個別	未記入
医師会	104	185	183	1	9
薬剤師会	79	122	273		8
行政	147	212	114	1	8
訪問看護ステーション	243	133	95		11

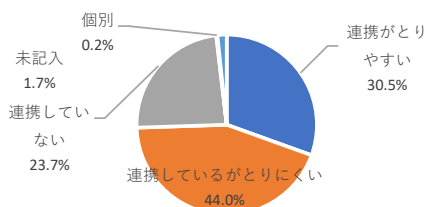
【地域の医師会】



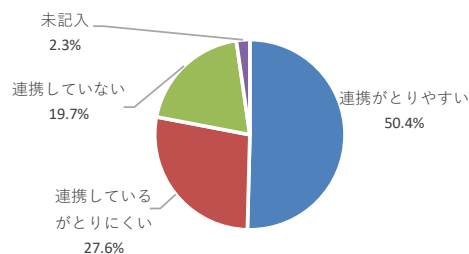
【地域の薬剤師会】



【地域の行政】



【地域の訪問看護ステーション】



(6) 当協議会への要望（行政等への要望含む）

【物資の支援】（40件）

- ・ マスク以外にも手指消毒や酒精綿が不足しています。訪問看護にも配布していただけるよう要望します。
- ・ 保健所からサージカルマスクをもらうのがとても大変でした。厚労省から県、そこから県訪看協会にマスクが支給されるようにしてほしい。現在は高い値段ならマスク、手袋、アルコールが手に入るようになりましたが、4月はそれすら手に入りませんでした。
- ・ 医療物品の不足が深刻です。（吸引カテーテル・酒精綿など）入荷が困難な状況が続いています。
- ・ 人工呼吸器を使用している18才以上の方へのアルコール消毒配布の依頼、（18才未満は2回あり）、訪問看護ステーションへも感染対策物品の供給
- ・ N95マスクや防護ガウンなど、個人で購入が困難なものを、協議会で一定数ストックいただき、必要な時に払い出してほしいです（今後の災害の事を考慮して）。
- ・ 日頃から使用している衛生材料は、ステーションはもちろんの事利用者様も不足しているため確保してほしい
- ・ 物品不足を解決してほしい。感染予防マニュアル遵守に必要な物品を行政で配給するなど。
- ・ 感染者の訪問の可能性があるため、防護用の物品については支給をお願いしたい。
- ・ エタノール消毒液が足りなくなりそうです。購入できる所がないため、心配です。
- ・ スタッフ（看護師）5名以上の訪看には充分にエタノール、マスク等配布をお願い致します。午前と午後2度交換で月400枚以上使用しており、スタッフが買いに行く頃にはマスクも無いという状態もあり、事務所で購入し、スタッフに配布。
- ・ マスクの供給は見込みが出てきたが、それ以外の供給が見通しが立っていない状況であるため、代替品として準備はするが、防護用ガウンなど少数でも供給してほしい。
- ・ 感染対策の物品の購入など業者を特定し不足しない状況を作って欲しい。
- ・ 物品が足りない、入手も難しい、支給を頻回にしてほしい。
- ・ マスクの買い占めが多く、マスク不足が続いています。また高額であるため収益に見合いません。感染予防の物品を優先的に正規価格で販売してほしい。
- ・ マスクやエプロン等を確保できるようにしてほしい。
- ・ 感染対策物品が入手しやすいようにしてほしい。
- ・ マスクやエタノールが全く手に入らなくなった時医師会や各協会、協議会を頼りたいと思いました。医療機関へ何万枚も寄附があったとしてもステーションには来ません。病院が優先されるのも理解できます。ただあと100枚あれば何とかしのげると思った時期もありました。物品がそろわないことがこんなに大きなストレスになると思いませんでした。半年経ち慣れました。
- ・ 医療ステーションコードを登録している某インターネットサイトでは、「病院」ではないので-googleが購入できないようになっていた。訪問看護でも使うのに。行政から訪問看護への物品購入の規制を緩和してほしい。
- ・ 体温計やSpO₂測定器が入荷出来ないため、個別に使用するなど工夫が出来ない。訪問にはガウンは欠かせないため、今後順調に入荷できることが続く事を願っています。
- ・ 物品の仕入に高額な費用がかかっている。定価で購入出来るようにしたい。
- ・ 今落ち着きつつある時期ですが、布マスクを手作りしたり、早朝薬局前に並んだ時期に助けてほしかった。・役所は備蓄用の不織布マスクや消毒液の配布を各施設いただき助かりました。
- ・ 末端である福祉施設への対応が遅く感じました。エタノール系の不足、マスクの不足に再三県にも相談致しましたが未だに手元に届いておりません。
- ・ 感染者が出た時の対応が必要となる、ガウンやフェイスシールド等の物品が手に入りにくいので、手に入りやすく出来るよう、お願いしたいと思います。
- ・ マスクはやはり、1部門につき1枚で交換が望ましいが不足してしまうため、1日1枚としています。感染予防を考えると心配です。今後のために、安く、たくさん入手できる方法ないでしょうか。消毒液なども同じです。医療従事者がいつもの所で買わずに、スギ薬局などで高い物を買ったりしている現状と思います。購入できるルートも教えて頂きたいです。一般の人と同じでは困ります。朝並べないですし。
- ・ 陽性患者さんや濃厚接触者さんの訪問になった場合、PEEグッズとして14日間ステーションやステーションだけでなく介護サービス事業所に届くシステムを構築していただきたい。
- ・ とりあえず不織布マスクを安く購入したいです。高いとなかなか買えません。
- ・ 防護用品の確保を充実させたいです。
- ・ 地域の連携（訪看：訪看）小さな事業所が多いので広域的に考えてもいいかどうか悩みます。

- 行政に対して病院や診療所には物資の支給がされているが、訪問看護ステーションへの物資の支給も、考えて支給して頂きたいです。
- マスク、消毒、手袋、フェイスシールド等の物資の提供を考えて頂けると助かります。大変だと思いますがよろしく願いいたします。
- N95について。利用者の発熱に対して、コロナに準じて自宅でも対応が必要と考えています。今回、N95マスクは、知り合いからわけてもらう形でしか準備できなかった。感染対策物品を行政として何かしら対応してほしい。
- マスクやガウン等、信用性に欠けるものも多く流通している。又、手袋・ガーゼなど、依然手に入りにくい物もある。第二波に向けて安全に安定して物品等を供給してくれる業者を紹介して頂きたい。
- コロナで大変な時には在宅へどんどん送ってきましたが、現時点で病院収入が減ってきた段階で、在宅での依頼の動きが少なくなり、病院が受け入れていると感じます。少し病院さんも勝手だなど思ったりもしますが、仕方ないですね。今後は自己防衛と動き出すと、第二波こそ在宅サービスの危機が現実となります。しかし感染を防ぐには不十分なものしか用意できない現状があります。
- 市から物品購入の斡旋のメールがあったが購入しなかった。後から無償での配布に変更になった。金額が高かったから購入しなかったが配布なら欲しかった（ギリギリで在庫があったが余裕がある程の在庫ではなかった）。
*初めから配布と教えてもらいたかった（マスク、アルコール）〇〇市からのメール、でのことです。
- 訪問看護ステーション単独の事業所です。緊急事態宣言下でもし感染者（スタッフ）が発生した場合のことを考えていました。すべて濃厚接触者となった場合に事業の継続ができないということは、事業所の休業ではなく廃止につながるのではないかと思います。訪問看護師として感染対策は充分に行っていますが、材料の不足はどうにもなりません。

【情報提供】 (17件)

- 地域別で、コロナ対応をいくらかとりまとめて頂けると大変ありがたい。愛知県でコロナ対応をしたSTの情報など教えて欲しい。
- 周辺の感染情報や、対応について分かると良いと思います。
- 新型コロナウイルス感染症に関する勉強会（オンライン）適宜、最新の情報があるといいです。
- ST同士、どんな対策をしているか分かると心強い。
- 最新情報を適宜おしえて頂けたらと思います。
- 他ステーションの感染症対策等を、周知して頂き、情報が共有できるとありがたいです。
- アンケートありがとうございます。個人で事業所を運営されている方が創意工夫されながら頑張っておられます。必要な場所に必要量行きわたることを願っています。また不安のあまり、感染対策が過剰になっていたり、反対に対策が不十分なところもあります。感染対策に関する学びはこれからも必要であると感じます。
- 様々な方面からの情報の周知のために対応をお願いしたい。研修会・会議等の自粛が続く中で、情報を十分とれているか不安がある。
- 正しい情報をリアルタイムに伝えてほしい。・一番初めに受診するのがクリニック、町医者になるのでPCR検査ができるようにしてほしい。
- 感染予防対策の過不足が自ステーションで判断が難しいです。取り組みの例等、協議会のHPで紹介いただけると嬉しいです。
- 地域的な、その時々々の感染対策の指針がありましたら、出して頂きたいです。
- コロナの感染者がわかった場合、なるべく詳しい情報が欲しい。
- 訪問看護ステーション独自の情報がほしいです。
- 医療従事者、介護福祉の従事者には、コロナ感染者の状況、摂食範囲などを、重点的に知らせたい。
- 正しい情報を早く頂きたい。
- 病院や訪看と地域の連携方法や新しい制度などありましたら教えていただきたいです。
- 自粛中を含め感染者、自宅待機者の対応の有無、状況など知る機会があればと思います。

【支援体制の整備】

(24件)

- 依頼文にもあったように、病院やクリニックとは異なり、訪問看護ステーションでも感染リスクがあることなどが知られていないと感じます。今回のアンケート結果など、協議会を通して訴えて頂きたいと思います。
- 訪問看護への救済は後回しになってしまっていると感じるが、利用者さんや医師会のステーションが協力してくれ助かっている。訪問看護は在宅の医療現場、病院と同様に（もしかしたら、それ以上に）対策をしっかりとさせないと医療崩壊につながってしまうと思う。在宅医療における予防・対策はとても重要だと、声を大にして言いたい。
- 訪看の予防策やコロナ発生時のステーション間応援などの支援。
- 先日行われたZOOMのコロナ学習会の第二弾をやっていただきたい。他のステーションの動き方、対策のとり方を知りたいです。
- 連携する機会や交流、情報交換をする機会がない。
- 訪問看護事業所が医療機関の扱いだという認識が低い為位置づけのアピールをするとともに医療従事者として抗体検査等の対象に入れてほしい。
- 在宅の患者様がコロナ感染あるいは疑いのあるとき、入院の対応がスムーズにいくようなしくみを希望します。
- 要望ではありませんが、医療機関の中の訪看でもあり、回答が適当か不明瞭ではあります。ご了承ください。
- 相談窓口のスムーズな対応→緊急を要する内容に対しての、既答が欲しい時もあるため。
- 自分の訪看ステーションで職員に感染者が出た場合、全滅とならないように考えて仕事をすすめている為、とても制限されることが多いです。でも病院などの一線の方達へのフォローはTV、マスコミでも取り上げられていますが地域の看護師へのフォローはないのが不思議です。今回初めてマスクの配布のFAXがあり嬉しかったです！ありがとうございます
- 地域の医院、クリニック、病院（主治医）の先生と色々相談したい事を電話やFAXなどで連絡するのですが、なかなか対応してくださらない（電話に出て頂けない、返事すら頂けない）先生が時々いらっしゃいます。私たちはもちろんですが利用者様自身が困ってしまう、苦しい思いをしてもらうので、快く対応していただきたいです。
- 訪問看護の管理者研修に参加したいが、今年度の予定はないのでしょうか。感染対策へのアドバイスをいただければと思います。
- 今回のような有事の場合、速やかに県内会員のために行動をとるべきと感じながらも、自己組織の運営に翻弄されジレンマを感じました。これを機に、協議会という組織に専従の職員を配置してはどうかと感じました（現職理事）。
- コロナの影響で研修が行われていないので、案内等、またお願いします。
- 県内の統一したマニュアルを整備して欲しい。情報の発信。
- 今は特に思いつきませんが、今回のことをうけて、今後広いエリアで他STとつながれるしくみがあるといいと思いました。
- 市内では、新型コロナウイルス感染者はいないが今後、発症者がスタッフも含めていた場合の近隣ステーションとの応援体制を実際にどうしているのかを教えてほしい。ステーション内でスタッフが感染した場合、病院併設のステーションであった場合、他部署から臨時で応援体制がとれるといい。
- 第二波に向けての訪問看護マニュアルもしくはガイドラインを作って頂きたい。スタッフが不安、不満を抱き、訪問を嫌がるため。
- わかりやすく連携を図れる仕組みを考えてほしい。スピード感がない。何をしているか、わかりにくい。
- 守っていただけると考えていた職能団体が行政との連携がとれていない事に残念に思う。訪問看護は設置主体によってかなり認識の差がある事を感じ、協議会も理解して頂きたい。高いマスク等を買いつける事が経営上負担になっている事よりも、何の支援も受けられない精神的ストレスが大きい、利用者、スタッフを守っていく管理者の心のケアにも目を向けて欲しかった。
- 今回のアンケート含め、対応全般が遅すぎると思います。会員である訪問看護ステーションの境遇や立場、困っているであろうこと等を一番理解しているのが協議会ではないのかな、と、がっかりしています。要望する余裕もなく、日々自施設の対応に追われていました。普段からの行政との連携の重要性が大切だと痛感しています。すでに、かなりの費用や時間をかけて、感染対策の物品や材料をなんとかそろえています。今後の見通しを考えると不安です、お忙しいとは思いますが、協議会から、現状や見通し、協議している内容などの情報を発信して欲しいです。
- 濃厚接触者、感染疑い者が出た時の対応の基準や検査等の優先順位など配慮していただきたい。そうでないとスタッフの配置等がとどこおり訪問に支障が出る。

【経済的支援】 (5件)

- ・ 今後今まで以上に感染対策費用が必要になるため、コロナ対策のみに限らず報酬への考慮をお願いしたいと思います。
- ・ 利用者又は家族への交付文書を配送対応する事が増えるため、文書通信費の補助等を検討して頂きたい（収益源の中、支出のみ増える）。
- ・ 昨年立ち上げの新規のステーションです。スタッフ1人でも濃厚接触者が出て一時的に閉鎖となれば運営できないのではないかと、又、利用者様も通院やデイサービス等利用されているので、いつ感染するか不安な状況で毎日訪問してます。訪看にも危険手当をつけて頂きたいです。
- ・ 必要物品の確保・コロナ利用者（疑いも含む）対応する職員の手当等待遇への配慮。
- ・ マスク等の物品確保に費用が高んでいる。

【行政への要望】 (13件)

- ・ 事業所もですが、給与下がっているスタッフにも助成金をお願いしたい、例えば危険手当等。宜しく願い致します。
- ・ 緊急時（一時的にステーション移行）の訪問看護指導書の交付をスムーズに実施していただけるよう、医師会の協力要請
- ・ 厚労省から物資がスムーズに訪問看護ステーションに支給されるよう、日頃から県とのパイプがあるといいと思います。
- ・ 小さな子どもがいるスタッフへの配慮のため人員不足。休みがとれない。他ステーションとの連携がとれるようにしてほしい。（医師の説明）コロナ感染者と同居の老人が、突然独居になるため、社会的入院ができるようにしてほしい。病院だけでなく、在宅もコロナと直面し、日々、恐怖の中勤務しています。国がもっと分かってくれることを願います。
- ・ 訪問医療事業をメディアを通じて国、県に周知していただきたいです、緊急事態下時、医療従事者の子供が預けられる体制づくりをお願いしたいです（行政への要望）。
- ・ 感染者に対し、在宅では物品不足の懸念もあり、限界がある為、スムーズな検査・病床の確保がされるよう要望。
- ・ ①危険（感染）リスクが高いため、医療保険で訪問できるようにしていただきたい。②ホテル・集合にコロナの患者様への訪問を許可されるよう③もっともっと訪看の役割を行政に伝え、働きかけて頂きたい。
- ・ 在宅療養環境で今回の感染、以前にあった災害の時など行政からの対応指示があると良い。
- ・ 行政の対応が遅いと感じるが国への要望書を提出していただき感謝している。
- ・ 施設の訪問もあるため単体の訪問よりは強い制限がかかり、発熱しているとコロナの可能性が低くても施設オーナー（クリニック）もしくは市としての共通のガイドラインがあると連携もとりやすくなるのではないかと。
- ・ 感染対策の物品供給を要望、感染対策費用の補助金対策をお願いしたい。
- ・ これらの要望を医師会や県に上げてほしい。

【その他】 (11件)

- ・ 在宅＝介護がクローズアップされがちなので、看護もアピールしていきたい。看護業務は病院だけではない事もお伝えいただけ
- ・ コロナ専門のステーションを作って下さい（在宅でコロナを対応しろと言うなら）。
- ・ サ高住などの面会の制限があり、2～3月間リハが中止され、（施設の考えにより）認知症の進行、ADLの低下が著明であり、まだリモートでの面会をすすめている。マスコミに対して不信感が強い。宜しく願いします。
- ・ 訪問看護は介護部門と認識されがちだが、医療面と両方併せもっており、又、密着を避けられない仕事であると評価してほしい。
- ・ 国や県からマスクのニュースは見たものの、訪看は対象施設ではないのだと思っていたので、協議会の働きかけに感謝致します。コロナ感染して訪問キャンセルしても、TELでの算定について、ありがたいですが、今まで30分～1Hの訪問をしていた方に、TELだけで報酬請求することは、心情的に難しいです。
- ・ 濃厚接触者、感染疑い者が出た時の対応の基準や検査等の優先順位など配慮して頂きたい。そうでないとスタッフの配置等がとどこおり訪問に支障が出る。
- ・ 発熱は訪問してからでなくてはわからず、先に予防衣を着て入ることも数的にできず、再利用もおいでしておくには不潔になる環境も多いため、かなり不安をもって対応していたし、ヘルパーさんの力もとても必要でした。
- ・ とても困っています。スタッフの人数を増やしたいが、警察が「駐車許可証をとる車は3台まで」「パーキングがあるから許可しない」もしくはパーキングが満車の時があると伝えると「満車の写真を撮って持ってくるように」など、在宅医療に理解してくださらない為、他ステーション管理者も頭を抱えている。これでは利用者様の受け入れができなくなります！！
- ・ まだ4月開業のステーションですので、皆さんに教えていただきながら頑張りたいと思います。
- ・ 先日送っていただいた「何でも相談事例集」はとても参考になります。今後も継続申し上げます